資料６－１

ＣＣＳ／ＣＤＭの検討状況

１．ＣＯＰ／ＭＯＰ１（議題：ＣＤＭへの追加ガイダンス）において以下の一連の決定がなされた。

(ア)　各国が 2006 年 2 月 13 日までに、CCS を CDM とすることについて、特にプロジェクト境界、リーケージ、永続性について考慮しつつ、UNFCCC 事務局に対して、サブミッションを提出すること。

(イ)　2006 年 5 月の気候変動枠組条約補助機関会合（SBSTA24）の際には、本議題を検討するため、「二酸化炭素回収・貯留とＣＤＭに関するワークショップ」を開催すること。

(ウ)　CDM 理事会に対して、COP/MOP2 決定の勧告をまとめるために、CCS－CDM のための新規方法論の提案を要請すること（request）。

(エ)　COP/MOP２において、CCS を CDM とすることについて、CDM 理事会への指針が決定されるように、各国からのサブミッション、上記ワークショップの報告書、CDM 理事会からの勧告を検討すること。

２．ＣＯＰ／ＭＯＰ１以降の状況

○ COP/MOP1 を受け、各国からのサブミッションの提出が行われた。

３．ＣＣＳ／ＣＤＭに関する方法論の申請

CCS を CDM プロジェクトとすることを意図して、日本の事業者から以下のプロジェクトについてベースライン・モニタリング方法論の申請が既に行われている。

（１）　ベトナムの油田への地中隔離・貯蔵

①　排出削減予測量：460 万トン/年平均、合計 3,200 万トン/7 年

②　プロジェクト概要：CCGT（コンバインド・サイクル・ガスタービン）からの CO2 を回収・隔離し、White Tiger 油田（地中）に注入し貯蔵する。2010 年より事業開始予定。

（２）　マレーシアの沖合海底下での貯蔵

①排出削減予測量：300 万トン/年平均、合計 2,100 万トン/7 年

②プロジェクト概要：LNG 施設からの CO2 を回収し、120 キロ沖合海底下の帯水層へ注入し貯蔵する。2011 年より事業開始予定。